

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名	希釈式自己血輸血は婦人科悪性腫瘍の同種血輸血を回避し得たか			
2. 対象患者	2000年4月1日から2016年3月31日までの期間に当院において婦人科悪性腫瘍根治術を施行した患者を対象とします。			
3. 対象となる期間	2000年4月1日～2016年3月31日			
4. 実施診療科等	麻酔科			
5. 研究責任者	氏名	斎藤 淳一	所属	麻酔科学講座
6. 研究の意義	婦人科悪性腫瘍手術における希釈式自己血輸血の有用性と安全性を立証し、希釈式自己血輸血の普及に貢献できると考えています。			
7. 研究の目的	近年、同種血輸血は免疫機能を修飾し担癌患者の生命予後を悪化させる可能性が報告されています。一方、希釈式自己血輸血は周術期の同種血輸血の頻度や使用量を減少させる可能性が示唆されていますが、明らかにされている有用性は限定的であり、担癌患者における有用性については不明な点が多いのが現状です。当院では婦人科悪性腫瘍の全身麻酔管理において希釈式自己血輸血を積極的に施行してきました。今回、婦人科悪性腫瘍根治術患者を後方視的に抽出し、希釈式自己血輸血の施行が周術期輸液輸血管理や全身管理に与えた影響について検討します。			
8. 研究の方法 (使用する資料等)	当科で保存している麻酔記録より過去16年にわたる婦人科悪性腫瘍根治手術患者を抽出し、希釈式自己血輸血の有無で患者を2群に分けます。該当患者を麻酔記録やカルテを利用し患者の輸血量、合併症、入院期間などを確認します。主要評価項目は周術期輸血量とします。 副次的評価項目は入院期間、輸液量、周術期合併症などとする。 統計学的検討はt検定を用いて検討する。			
9. 個人情報の保護	それぞれのデータは名前等の記載はせず、またデータ自体が個人の特定性が低いため、解析やデータの公表にあたっては各個人の同定は不可能であり、対象者のプライバシーは十分に擁護され则认为ます。収集したデータは麻酔科学講座で保管します。			
10. 利益相反に関する状況	研究責任者および研究協力者のいずれも公開すべきCIはありません、			
11. 問い合わせ先	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座			
	電話	0172-39-5113	FAX	0172-39-5112

提出先

医学部附属病院 総務課

総務グループ 総務・広報担当

E-mail : jm6453@hirosaki-u.ac.jp